

論文審査の結果の要旨

平成 28 年 3 月 14 日

氏 名： 澤田 康裕

論文題目： 薬剤師の社会的職能拡大に向けた社会薬学的研究

本博士論文では、薬剤師が日常業務の中で実務研究を遂行する上での問題点を明らかにし、その解決策を提言した論文である。

これからの薬剤師は、臨床マインドと研究マインドをバランスよく持って活躍することが社会から求められており、薬剤師の職能拡大のためには実務研究の実施が重要である。今後は薬剤師自らが実務研究を実施することによって「薬剤師が医療に貢献できること」をエビデンスをもって示していかなければならない。しかしながら、現場において様々な問題点や困難が存在しており、日本では薬剤師による実務研究はほとんど進展していない。澤田氏の博士論文ではこれらの社会的な背景を鋭くとらえ、調査研究と統計学的解析を用いて、薬剤師による実務研究の困難な点を明らかにした点が高く評価される。

本論文の中では、薬剤師が実務研究を推進するためには、業務の中から時間を作ることができ環境、まとめ方を気軽に相談できる指導者の存在などが不可欠であり、さらに統計解析の知識や臨床試験の知識なども幅広く学んでいく必要があると主張している。また、薬局のマネージャーとしての立場からその解決策を提案している。澤田氏がこれらの点を専門学会や学術誌を介して公表することによって、薬剤師自らが実務研究を実施することにおける困難が解消され、薬剤師の職域が拡大し、さらに深く医療に貢献できるようになるであろう。本論文の研究成果はこのような社会的な波及効果が十分に期待できるものである。また、論旨は現場の薬剤師と大学との協力関係にも進展し、社会人大学院生として大学を利用することの重要性を説いている点も注目に値する。

本博士論文は、先行する研究が皆無であるため、着眼点自身が独創性を有し、この成果は臨床薬学分野を大きく進展させるものと評価できる。結論に導いた研究結果や情報は過不足なく、適切な方法論を用いて分析・考察を行っている。考察のプロセスにおいては、その論旨が一貫しており結論に至っている。論文の形式は臨床薬学分野の標準的な様式を遵守して整えられている。本論文はまさに本薬学研究科の社会的な存在意義をも示すものであり、本薬学研究科博士号第 1 号を与えるにふさわしい内容であると確信する。

審査員全員で総合的に検討した結果、以上の点が評価され、澤田康裕氏から提出された博士論文は博士（薬学）の学位論文として一定の水準に達していると判断した。

主査： 薬学研究科 堀江 俊治

副査： 薬学研究科 山村 重雄

副査： 薬学研究科 太田 篤胤